

# 生物科学学会連合(生科連)

## 沿革

- 1998年 故丸山工作先生の呼びかけで13学会の連合体を設立。  
緩やかな連携で、基礎生物学の振興と国の政策に対する  
意見表出を主目的とする。
- 2007年 日本学術会議生物科学分科会との協力体制を構築。  
このころ加盟団体は20学会。
- 2011年 生科連規約改定。代表選挙制。25学会。
- 2013年 日本版NIH構想について緊急声明。
- 2015年 生科連からの〈重要なお願い〉を刊行。
- 2018年 現時点で、加盟団体は31団体。

# 生物科学学会連合(生科連)

が果たすべき役割, 果たしてきた役割

1. 国の施策に関する意見表明(科研費問題, ポスドク問題等)
2. 公開シンポジウム(若手キャリア問題: 日本学術会議と共催)
3. 大型研究計画に関する情報共有
4. 学協会の公益法人化について, 情報共有
5. 合同大会のあり方, 今後の可能性について
6. 高校生物教育における教科書のあり方について(用語問題)
7. 国際生物学オリンピックについて
8. その他国際対応について
9. 我が国から発信するジャーナルについて
10. 災害時の情報収集と行政との連携
11. 研究不正問題について
12. その他

## 法人化という観点では

### 生科連加盟団体(31学協会)中

公益社団法人	6(実験動物, 植物, 生化学, 動物, 農芸化学, 薬理)
公益財団法人	1(遺伝)
NPO法人	3(個体群生態, 分子生物, 免疫)
一般社団法人	10(宇宙生物, 解剖, 細胞生物, 植物生理, 進化, 生態, 生物教育, 生物物理, 生理, 蛋白質)
一般財団法人	1(染色体)
任意団体	10